

5000件超える苦情無視

【港区議会第3回定例会区議会レポート】

後期高齢者医療制度

廃止求める請願

再び否決

自民・公明・フォーラム民主

6月議会に続いて今議会に、再び後期高齢者医療制度の廃止の「意見書」提出を求める請願が出されました。圧倒的な国民・区民は制度の廃止を求めています。港区役所にも新保険料の通知直後から、5,000件を超える苦情や問い合わせが殺到し、窓口はその対応に追われていました。

党議員団は採択を主張

6名の日本共産党議員団は、区民の強い願いであるこ

の「請願」の採択を主張しました。

ところが、自民・公明・フォーラム民主（民主4名、社民1名、オンブズマン1名）・みらいが否決しました。

参議院では「廃止法案」可決

民主党も社民党も日本共産党とともに、参議院では「廃止法案」を可決しています。

区議会では全く正反対の態度、とても納得できるものではありません。

09年度当初予算への要望書提出



区長要請する地区委員長・議員団

9月17日、09年度当初予算に対する要望書を提出しました。区民に身近なくらしとまちづくり等の施策について、195項目にまとめ、来年度予算に反映するよう求めました。

請願審議を傍聴して

（白金三丁目在住 八十代男性 Nさん）

請願審議の委員会を傍聴しました。自民党委員は、「必要な制度であり、廃止は考えられない」の一点張り。請願趣旨説明のKさんの三十分及びぶ熱弁にも、共産党議員の意見にも全く耳を貸さず、共産党を除くオール与党で「請願」は否決されてしまいました。私どもの世代では考えられない常軌を逸した行為だと感じました。

思想、主義、主張は自由であるべきですが、参議院での「廃止法案」の可決と照らし合わせても、自民・公明、共産以外の区議会議員は全員、無所属となるべきでありましょう。一人ひとりの生命に関わる医療問題は大切です。党派を超えて慎重に審議し、高齢者が安心して暮らせる道を検討して欲しいものです。

「国会での自民、民主の対決ポーズ あやしい」

多くの傍聴者から怒りの声

議会を傍聴した方からは「民主党は全くデタラメな政党だ。区民をバカにしている」「国会では対決ポーズを取っているが、それもあやしい」などと、怒りを爆発させていました。

日本共産党

港区議員団ニュース

2008年 秋季号

日本共産党港区議員団

〒105-8511 東京都港区芝公園1-5-25 TEL: 03-3578-2945 FAX: 03-3578-2947

メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

ホームページ http://www.jcp-minatokugidan.gr.jp

営業を守るため

奮闘

定例会の主な内容を紹介し、また、党区議団が提案した「事故米問題の全容解明と米の意見書」など7本の意見書、要望書が全会一致で議決されました。



党議員団は一貫して原油・物価高騰対策を求めてきましたが、今議会でも、原油高騰の影響が著しいクリーニング店、中小運送業者等々、又はそれぞれの協同組合へ「燃料高騰分の補助を実施すべき」と質問。区長は、「きめ細かな相談体制に応じる」と答弁。また、銀行の貸し渋り、貸しはがしが強まっております。直貸しを含め、無利子、無担保の緊急融資制度の創設を提案。区長は期間限定で、無利子融資制度の創設を検討することを明らかにしました。

原油・物価高騰対策を要求 「無利子融資制度を検討」

本会議、決算委員会でそれぞれ質問しました

本会議では、熊田ちづ子議員が代表質問、大滝実議員が一般質問、決算委員会の総括質問は沖島えみ子議員が行いました。主な質問項目は、次の通りです。

■あいつぐ値上げでくらしと営業は大変。緊急対策急げ ■若者の雇用環境は深刻。夢や展望のもてる対策を ■後期高齢者医療制度廃止は国民の声。国に廃止を求めよ ■介護保険料の軽減を ■福祉施設の運営費助成・職員確保の支援を ■区立保育園の建設で待機児童解消を ■周辺区と同様に、絶対高さ制限を ■廃食油を回収して燃料に ■区民の緑のカーテンに支援を ■区が率先してアイドリングストップの実践を ■高層マンションの震災対策を急げ ■三十人学級の早期実施を ■直貸しを含め、無利子・無担保の緊急融資を ■生活資金の無利子貸付を ■税源委譲に伴う区民税の還付の徹底 ■再開発補助金支出をやめよ ■保育園に警備員の配置を etc。

障害者の雇用拡大を

障害者インターンシップ制度では、就労の場や機会が少ない知的・精神障害者に新しい就労体験をしてもらい、授産施設等の委託業務拡大の可能性を検証しています。昨年度は十四名が、コピー用紙の補充や、毎日の新聞の印刷・配布・保存、交換便業務などの仕事の体験をしました。今年度も三十数人が就労体験する予定です。障害者雇用の拡大を図るよう質問し、区も積極的に取り組む姿勢を示しています。



就労訓練風景

共産党が提案

「温室効果ガス削減中期目標の早期確立を国に求める意見書」採択

党議員団は、これまで再三、「国に温室効果ガス排出量の中期目標を早期に確立するよう求めるべき」と要求してきましたが、区長は「国の動向を見守る」の答弁の繰り返しでした。

今議会では「区長は地球温暖化対策が人類の生存にかかわる緊急課題であるという認識はないのか」と迫り、「区議会として意見書を」と提案。

本会議で、「政府に対し先進国としての役割にふさわしい温室効果ガス削減の中期目標を早期に確立することを強く求める」の意見書が、全会一致で採択されました。



再開発の補助金の中止 高さ制限の導入を

都内の百メートルを超えるビル一三五棟のうち、七八%の一〇五棟が港区に集中、その異常さは際だっています。「もう超高層ビルはいらない」が区民の八割を超える声です。森ビルなどへの補助金支出をやめ、また、周辺区で導入している絶対高さ制限をこの港区でも導入するよう提案。区長は、相変わらず「補助金は必要」と超高層ビル推進を表明。「高さ制限は、地域住民の合意形成を図り、地区計画など都市計画制度を活用」と他人まかせの答弁でした。

「天空率」？ 建築説明会で 事業主に説明責任を

党議員団は、「天空率を活用した建築計画では、道路・隣地斜線の規制外で高さ制限も緩和され、より高いビルが建てられる。これを事業者は住民にいつい説明していない。説明を義務づけ、条例改定を行なうべき」と要求。理事者は、「立面図に道路斜線等を記載させ、斜線を超える部分を明示し説明するよう指導し、紛争予防条例施行規則の改正も検討する」と答弁。

て交渉してきましたが、業者側は強引に計画を進めようとしているため、請願を提出したものの。党委員は「区は建築主らとの対応の仕方をいねいに住民に教えるべきで、区の対応はなっていない」と批判。住民の立場で事業者を指導するよう求めました。建築課長は「話し合いをするように業者を指導する」「必要なら、話し合いに立ち会う」と答えました。

(仮称) 西麻布計画に関する請願採択 64メートルのマンション計画

「(仮称)西麻布計画に関する請願」が、全会一致で採択されました。(株)明建、積水ハウス(株)が、テレビ朝日通りに地上・地下二階建ての高層マンション建設を計画。一七階に囲い壁を設け、周辺より一六メートルも高くなります。近隣住民は計画見直しを求め



天空率採用ビル風景

国の悪政から区民生活

6名の党区議団奮闘

08年第3回定例区議会が9月18日から10月10日まで開かれました。今議会は07年度決算審議も行われ、党区議団のいのくま正一区議が決算委員長を務めました。決算審議は来年度予算に区民要望を反映させるための大事な質問の機会です。日本共産党区議団6名は、区民から寄せられた要望

実現に奮闘しました。定額流通管理の徹底を求め

「ちいばす」路線拡大を急げ

「ちいばす」の路線拡大については、これまで六件の請願が提出され、全てが採択されています。党議員団は決算委員会で、「ちいばす」の運行拡大計画を求めました。区は、「採択された請願も勘案し、全総合支所を（路線に）取り込んで」と答弁しました。



都立芝公園、清流の復活を

都立芝公園内の梅林下の小川は、住民の方からも、「なぜ水を流していないのか」との声が寄せられました。東京都に復活を求めました。



芝公園の小川

新郷土資料館 早期建設を

党議員団は、「新郷土資料館の早期建設」を要求。区は「次期基本計画に計上、引き続き努力していく」と答弁。また、区は館展示用の資料収集を進めており（170点を購入済み）、「これを館のホームページに公開するよう」求めました。区は「文化財に容易に親しむことが出来るよう、工夫に努める」、収集資料の展示会の拡大も「検討していく」と答弁。

氷川山車復元・修復 全額補助を要求

党議員団は、歴史遺産の赤坂氷川山車の復元・修復費用の全額補助を要求しました。



私立幼稚園の保護者からの「教育費負担軽減を求める請願」を全会一致で採択。請願者代表は、園から「来年度から冷暖房費の六〜七千円負担増を」、「延長保育の一時負担の値上げ（四〇〇円を五〇〇円に）」などが提案されていると報告。党委員は「園と保護者を支援すること」、また、「入園補助金制度の実施を」と要求。教育委員会は、「補助金の増額も含め協議・検討していく」と答弁。

私立幼稚園保護者の負担軽減を求める請願 可決



急がれる待機児童解消には、ほとんどの答弁で「待機児童解消には、ほとんどの答弁で「待機児童解消には、ほとんどの答弁で」

区立認可保育園建設で待機児童の早期解消を

九月一日時点の待機児童数は八三四人、ここ三ヶ月で一八八人も増えています。党委員は、「待機児童解消に区が直接責任を持つべき。公有地を確保し、区立保育園の建設を急ぐよう」要求。区長は、「高輪保育園の改築や志田町保育園の移転整備による定員拡大や、新たに三ヶ所で区立認可保育園の設置に向けた検討を進めている」と、

今年も「ピースコンサート」開かれる

今年も芝公園で「ピースコンサート」が開かれました。「平和の灯」を分火して頂いた自治体



今年のピースコンサート

である、長崎市長、広島市長、福岡県星野村長からの「核兵器のない平和な世界の実現へ」の連帯のメッセージが紹介され、参加者に共感と感動を広げました。

「平和の灯」案内板の増設を

「平和の灯の案内板には、平和の灯の謂われ、平和都市宣言などを載せ、他の出入口にも増設を」と提案しました。理事者は、「案内板は、来年度以降増設したい」と答弁しました。

大人気の健康トレーニング教室 区が充実を約束

福祉会館で行っている健康トレーニング教室は、「教室に通うようになって、調子がよくなった」「歩く姿勢がよくなった」と言われた「お話が出来て楽しい」などの感想が寄せられ、どこでも大人気。閉じこもりや要介護になるのを防ぐのに、ストレッチや、簡単な筋力トレーニングはとても有効です。今回応募者が多く、抽選にもれた方が三十五人にもなりました。福祉会館とも相談、「出来るところから回数を増やすよう」求めました。区も、福祉会館を介護予防の拠点として位置づけ、「回数を増やすことや、プログラムの充実に努める」と約束しました。

お年寄りが大事にされる区政を

なぜ実施しない、高齢者の入院見舞金制度

千代田区、新宿区では七十五歳以上の高齢者に入院見舞金を支給、中野区でも実施の動きです。党議員団は「税制改悪や物価高などで、区民は大変。ぜひ実現を」と再度要求。区長は「国の見直しの動向も見極め、引き続き検討」と先延ばしの答弁でした。



これ以上の負担はムリ 介護保険料の引き下げを求める

現在の介護保険料は平均で四五〇〇円ですが、介護給付費が増えれば保険料に跳ね返る仕組みで、新たな特養ホームの建設、調整交付金の不足、高齢者の増加等で、港区でも来年四月から、保険料が大幅に引き上げられる心配があります。党議員は、一般財源の投入や四億八五〇〇万円の介護給付費準備基金を活用して保険料を引き下げよう質問しました。区は、「一般財源を投入することは適切ではない」「基金の活用は今後検討する」と答弁。これ以上の負担を増やさないために、引き続き頑張ります。

だれもが介護される保証を 介護施設・福祉施設への支援急げ

党議員団は、六つの特別養護老人ホームを訪問。度重なる介護報酬引き下げ、原油や食料費など諸物価高騰の影響、人材不足の実態などのヒアリングを行いました。公共料金やクリーニング代で年七百万円の負担増、給食業者が値上げを求めている、職員の確保も難しいなど訴えられました。施設の努力にも限界があり、利用者サービスの低下が懸念されます。党議員団は、①原油・物価高騰対策として緊急に運営費補助を②職員確保に人件費

補助、住宅手当支援を③介護専門学校との連携を④専門学校生への奨学金制度・返済免除制度の創設などを求めました。区長は、①サービスに支障が生じないように努める②国の動向を見守る③人材育成策などの連携は協議中④今後の計画の中で検討と答弁。



お年寄りの介護風景

「介護労働者の待遇改善を」の請願

自民・公明・フォーラム民主が継続に

介護職員が働き続けられるよう、施設職場の青年が「家賃補助制度や、複数夜勤体制のための人件費補助等を求める請願」を提出しました。「仕事に誇りを持っているが、給料が安く結婚・子育てを考えると働き続けられるか不安」「利用者が入院するとその分訪問が減り、事業所の収入減で、職員の給料も下がる」などと生々しく訴えました。党区議員団は、介護従事者の人材不足の解消支援が急がれると「採択」を主張。自・公などは、深刻な事態は解決する

必要があるとしながら、「継続」審議に。請願審議を傍聴して

「二十代で給料が十八万円から十九万円（夜勤を含む）、夜も九人の入居者を一人で看ている。事故があつてからは遅い。せめて複数体制ができるよう介護職の待遇を改善してほしい」と、請願の趣旨説明では懸命な訴えがあつたのに、共産党以外の会派が「継続審議」の主張には驚きました。実態を的確にとらえ、何か対策を求めるよう行政に迫っていたのは日本共産党だけでした。介護問題一つをとっても、社会保障の問題を本当に考えてくれる政党はどこかといふことがよく分かりました。一人でも多くの方が議会を傍聴されることを望みます。（二十代 女性）

都議会 自民・公明・民主が…………… 会派ごとに

豪華海外旅行

視察「報告書」盗用の指摘にも「まったく問題なし」（自民党幹事長）

私たちの暮らしは、不況、物価高、社会保障の切り下げ、負担増と一段と深刻です。

こうした中、都議会の自民・公明・民主の議員は、海外視察

と称して相変わらず豪華な税金旅行を行っています。しかも、党都議団が明るみにしたように、視察「報告書」の盗用も行われています。日本共産党は、中止を要求しています。

この間の海外視察の一部

年度(平成)	視察参加議員(敬称略)	訪問先	経費合計(約)	一人あたり経費
14	(民主) 大塚、尾崎、他1名	サンフランシスコ、ラスベガス、ニューヨーク	458万円	約153万円
17	(自民) きたしろ、他5名 (公明) 長橋、他2名	シカゴ、ニューヨーク、ニューオリンズ、ワシントン	1,275万円	約142万円
18	(民主) 大沢、大西、他2名	サンパウロ、クリチバ、フォース・ド・イグアス	765万円	約191万円
18	(自民) 山崎、他2名 (公明) 中島	ドバイ、ドーハ、アテネ	725万円	約181万円
19	(民主) 中村、酒井、他2名	ストックホルム、レイキャビック 他	1,078万円	約270万円